



タウラスの小型アンプ・ヘッド

小型なのに高出力！ 次世代アンプを 石原“SHARA”慎一郎が試奏!!

～StompHead 2 High Gain&Classic～



■試奏者■

◎ご存知、アースシェイカーやミントミンツでおなじみの石原“SHARA”慎一郎。ミントミンツでは、9月11日にニュー・アルバムをリリースしたばかり！ その新作でもたっぷり聴けるシャラ・サウンドは、誰もが認めるどころ。はたして、ストンプヘッドはシャラのお眼鏡に叶うか!?



ミントミンツ
『Hell Train』
aftermints mint0005
¥3,300 (税込) 9月11日発売

どうも、SHARAです！ 今回は、アンプ・ヘッドだということに、コンパクトなストンプヘッドを試奏レポートしたいと思います。

チューブ・アンプの音は好きなんですけど、あの大きさとの重量を考えると買うのをためらってしまう人も多いと思う。でも、毎回スタジオやライブ・ハウスのメンテナンスの行き届いていないアンプで、自分の音をすぐに作り出すのは大変な作業だね。そんな場面でいつも悩んでるみんなにぴったりなのが、このストンプヘッド・シリーズ。2台とも見た目は思ったよりも小さくて、想像よりはるかに軽いんだ。かといって、おもちゃのような感じとは無縁だ。この大きさなら、車がなくてもカバンに入れて持っていくことができるし、どこのスタジオやライブ・ハウスでも、同じ音が出せるというわけだね。

たぶん、みんながこれを使う時のスピーカーは、ライブ・ハウスやスタジオに必ず置いてあるマーシャル1960Aだと思うので、今回は、僕も某スタジオのそれで、爆音で試してきたよ(写真下)。今回、試したのはストンプヘッド 2 High Gainとストンプヘッド 2 Classic の2機種。それでは、これから特徴を解説していくね。

まずは クリーン・サウンドから試奏してみよう。2機種の音は少し異なり、High Gain のほうが音が太いんだけど、両方ともに太くてツヤのあるクリーンを簡単に作れるね。Crunch っていうツマミが、これまた絶妙な効き具合で、両



デジタル・アンプや小型アンプなど便利なアンプが発表されているなか、アナログならではの質感なサウンドと、大型アンプ並みの高出力で話題のタウラス・ストンプヘッド・シリーズ。そのストンプヘッドに、新たな2モデルが加わった。以前から、ストンプヘッドが気になってると口にしてきたSHARAこと石原慎一郎に、試奏を依頼！ プロ・ギタリストの耳から聴いた、ストンプヘッドの実力を紹介しよう。



StompHead 2 High Gain ¥90,000+税

●出力：60w / 25w ●スピーカー・インピーダンス：自動設定 ●真空管：12AX7A×1 ●コントロール：〈クリーン・チャンネル〉＝ベース、ミドル、トレブル、クランチ、ヴォリューム 〈リード・チャンネル〉＝ドライブ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム ●スイッチ：チャンネル切り替えスイッチ、ミュート・スイッチ ●リア・パネル：インプット、スピーカー・アウト、入力ゲイン・ブースト、出力切り替えスイッチ、エフェクト・センド/リターン、プレゼンス・モード・スイッチ ●サイド端子：スピーカー・シミュレーション・ラインアウト、EXTコントローラー端子(クリーン/リードCH切替) ●外形寸法：290(幅)×80(高さ)×190(奥行き) mm ●重量：1.8 kg



StompHead 2 Classic ¥84,000+税

●出力：60w / 25w ●スピーカー・インピーダンス：自動設定 ●真空管：12AX7A×1 ●コントロール：〈クリーン・チャンネル〉＝ベース、ミドル、トレブル、クランチ、ヴォリューム 〈リード・チャンネル〉＝ドライブ、ベース、ミドル、トレブル、ヴォリューム ●スイッチ：チャンネル切り替えスイッチ、ミュート・スイッチ ●リア・パネル：インプット、スピーカー・アウト、入力ゲイン・ブースト、出力切り替えスイッチ、エフェクト・センド/リターン、プレゼンス・モード・スイッチ ●サイド端子：スピーカー・シミュレーション・ラインアウト、EXTコントローラー端子(クリーン/リードCH切替) ●外形寸法：290(幅)×80(高さ)×190(奥行き) mm ●重量：1.8 kg

機種とも完璧なクリーンから、かなり歪むクランチまでこれを回すだけで好みのところまで簡単に持っていく。こう書くと“ゲインのツマミ

なのでは？”って思うだろうけど、ゲインとは少しニュアンスが違う。ふつうのゲインは、歪みとともに音の太さもどんどん変わっていくんだ

■コンパクトなボディにハイ・ゲイン・サウンドを搭載したStompHead 2 High Gain



▲ StompHead 2 High Gainのコントロール部



▲12AX7A真空管を1本搭載し、トランジスタと組み合わせて出力するハイブリッド・アンプとなっている



▲リア・パネルにあるゲイン・スイッチを押すと、入力ゲインが+6dBブーストされる



▲プレゼンス・モード・スイッチを搭載しており、音の輪郭をハッキリさせるか、音の輪郭を丸くするか切り替え可能

けど、このツマミは極端な言い方をするとクリーンなサウンドに歪みが足されていく感じ。美しいクリーン・サウンドは作り方が難しいよね？クリーンすぎるとまわりの音と分離して浮いてしまうし、少し歪ませるといきなり汚くなってしまふ。それをピッキングやギターのリズムの上げ下げで絶妙なところに持っていくんだけど、これはクリーンに歪みをたす感じで効いてくれるので、その絶妙が簡単に手に入る感じ。

High Gainは、クリーンが気持ちいいよね。Classicは、クランチで使うとリードと切り替えた時のつながりが気持ちいい。Classicのクランチ・チャンネルとリード・チャンネル、High Gainのクリーン・チャンネルとリード・チャンネル、それぞれでクリーン・サウンドを出したい時は、ギターのリズムを絞るっていう使い方が僕のオススメかな。

音質は、両機種ともかなり太い！太さの印象はクリーン、クランチ、リードでも変わらない。レンジが広すぎる太さではなく、オール・チュー

ブではない強みなのか、ちゃんといらぬ部分はカットされてる感じなので、“アンプ・シミュレーターには慣れてるけど、チューブ・アンプはどうも苦手”という人にも扱いやすいと思う。

EQの効きも素晴らしく、好みのポイントはすぐに見つかるね。

あとは、センド・リターンもついていて、これも便利なんだ。センド・リターンにつなぐと、ディレイや空間系も濁らないでキレイにかかってくるので、すごく気持ちいい。だけど、シリーズ接続なので、つなぐエフェクターの質には気をつけたいところだね。

続いて、アンプの前にエフェクターをつないで試奏してみた。両機種ともエフェクターとの相性もよく、歪み系のブースターやオーバードライブ、ファズのそれぞれの特徴を損なわないでかかってくるね。形は違えど、ちゃんとしたヘッドだという証拠だよ。

60wと25wを切り替えるスイッチもついてるんだけど、これがまたマーシャルの100wと

高出力でありながら、驚きのコンパクト！

このアンプの最大の特徴は、高出力でありながら、そのコンパクトさにある。本誌と比べてもこのとおりで、本誌より小さい！大型アンプは車がないと運びにくかったが、これならカバンに入れてもOKだ。何度も言うが、これは小型アンプではなく、大型アンプ同様の出力を誇るアンプ・ヘッドということをお忘れなく。



50wの違いみたいな感じで、60wはレンジが広く暴れるハデな音、25wはまとまりのある扱いやすい音になってくれる。音圧も素晴らしく、60wだったら、そうとうラウドなドラマーとやっても大丈夫だよ(笑)。

ライン・アウトもついていて、スピーカー・シミュレーター(セッション・ヴァンテージ30搭載の4x12のキャビをシミュレート)を通過した

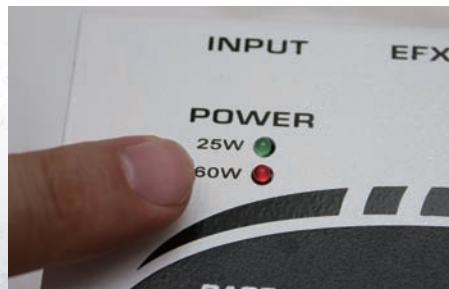
■ヴァンテージ・サウンドだけではない幅広い歪みを持つStompHead 2 Classic



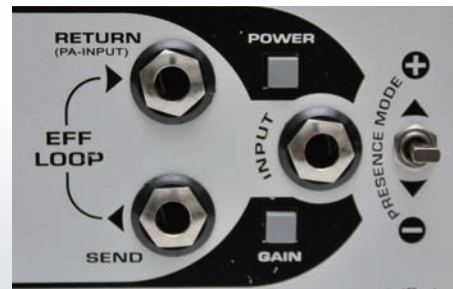
▲ StompHead 2 Classicのコントロール部



▲基本的なスペックは、High GainもClassicも同様だ。もちろん、こちらも真空管を使ったハイブリッド・タイプ



▲出力は、25wと60wの2種類が選択できる。リアにあるパワー・ボタンで切り替える(右写真も参照)



▲エフェクト・ループが付いているのもうれしい。エフェクターでもプリアンプでもなく、アンプ・ヘッドなのだ



サウンドをそのままDTMで録音することができるのも便利だね。そのサウンドもなかなかよかったんだけど、試しにスピーカー・アウトをトゥー・ノーツのトービド・ライブ(キャビネット・シミュレーター)につないで録音してみたら、EQが要らないぐらいの極太のめっちゃイ音でした。この音は次のレコーディングの時に本気で試してみたいな〜。

あれこれつなぎ変えて試してる時に感じたんだけど、ミュート・スイッチがあるのも便利だね。

さて、みんなの気になる歪みなんだけど、2

機種はかなり異なります。歪みの感じはどのアンプを意識したというよりも独自の音だと思うな。High Gainは、かなり下に太いモダンな印象。僕は低音を上げるのが好きなんだけど、これは上げなくてもそうとう出るアンプだね。ゲインの幅もかなり広くて、EQの効きと組み合わせざっていろんなサウンドが作れるし、ツマミがどの位置にあってもサウンドが崩れないのが素晴らしいよ。オフィシャル・サイトにも映像やいろんなサウンド・サンプルがあがってるんで、ぜひ、聴いてみて(<http://www.electroharmonix.co.jp/taurus/stomphead2hg.html>)。

Classicもかなり太いんだけど、目一杯歪ませた時にクラスAアンプに似た“キュッキュ”っていうコンプレッションが気持ちいいね。Classicも歪みの幅はかなり広くて、いろんなサウンドが作れる。こちらもツマミがどの位置にあってもサウンドが崩れないんだ。ネーミングからするとHigh Gainがモダン歪みでClassicがヴィンテージ系なニュアンスにとれるけど、両機種ともその枠ではくれないよさがあると思ったよ。だから、楽器店などで試奏する時は、ぜひ2機種とも試してほしい。歪みの質は異なるけど、両機種ともそうとう歪むからね。ソロまで弾けるぐらい充分に歪むけど、足りない人は手前にオーバードライブやブースターをかませるといい。両機種ともサスティーンも申し分なく、ノイズも大型のチューブ・アンプより少なくて使いやすいと思ったな。

トータルで言うと、持ち運び、使い勝手のどれをとっても圧倒的に使いやすいね。しかも、

SHARA オススメ・セッティングは!?

ここでは、SHARAがエディットしてくれたオススメ・セッティングを紹介しよう。どちらの機種でも、SHARAのサウンドに近づけるかもしれないぞ!?



サウンドはデジタルの音とは明らかに違う迫力がある。オール・チューブでないところが逆に圧倒的なあつかいやすさにつながったと思う。チューブ・アンプの迫力ある音に憧れる人、デジタルの冷たい音に飽きた人、チューブ・アンプを運ぶのに疲れはてた人(笑)は、ぜひ、一度弾いてみてほしいね。

まだまだあるぞ! タウラスならではの、高出力なのに小さなアンプ・ヘッド!

StompHead 4 High Gain

¥128,000+税



StompHead 4 Silver Line

¥98,000+税



StompHead 3 Black Line

¥65,000+税



StompHead 1 Black Line

¥50,000+税



今回、SHARAが試奏してくれた2モデルの他にも、ストンプヘッド・シリーズは4モデル発表されている。その4機種をここで紹介してみよう。

まずはストンプヘッド 4 High Gain。こちらは、今回、試奏した2よりも、さらに高出力な70wまで出力できる。プリ部に真空管を内蔵しているだけではなく、パワー部も真空管とトランジスタのハイブリッド・タイプを採用。さらに、ブースト・スイッチも装備しており、かなり実戦的なアンプ・ヘッドといえる。サウンドも、現代的でツブの細かい歪みが特徴だ。バンド・サウンドでも埋もれることなく、スタジオからライブ、さらにレコーディングまで使えるモデルとなっている。

Silver Lineも4 High Gainと同仕様で、70w出力のパワー部に真空管とトランジスタを採用したハイブリッド・タイプ。こちらの歪みも充分で、マーシャルでいえばJCM800〜2000ぐらいの幅を持ったオーバードライブ・サウンドが作れる。

3 Black Lineは60wのモデルで、真空管非搭載ながら真空管シミュレーション回路を採用し、トランジスタっぽさを除去している。1 Black Lineは、50wで、さらにシンプル&コンパクトにしたモデルと言えよう。